

2016年1月24日(日曜日)の東京新聞に バヌアツ大統領との懇談について紹介されました

サイクロン被害でパン缶詰1万缶支援

バヌアツ大統領が感謝



バヌアツのロンズデル大統領と懇談する秋元義彦さん(左)=バヌアツ大統領府で(いずれも秋元さん提供)

パンの缶詰で知られる那須塩原市の「パン・アキモト」の秋元義彦社長(左)が、南太平洋の島しょ国バヌアツの首都ポートビラで、ポールドウィン・シエイコブソン・ロンズデル大統領から、昨年三月のサイクロン被害への支援に対し感謝の言葉を受けた。同社はパンの缶詰一萬缶(二萬食分)を日本国際飢餓対策機構(JIFH)へ大阪府八尾市へを通じて贈っていた。(小寺勝美)

昨年十一月にJIFHを通して「お礼を伝えたい」と招待の話があり、一月四(十一)日までバヌアツを訪ねた。七日にJIFHの岩橋竜介理事長らとともに大統領府で面会。一時間ほど懇談し、秋元社長は特別に用意したバヌアツ国旗をプリントしたパンの缶詰を贈った。

ロンズデル大統領はその場でパンの缶詰を試食。パン・アキモトとJIFHが、世界の飢餓地域や災害現場で実施している食料支援プロジェクト「救缶島」の取り組みについての説明に耳を傾けていた。

秋元社長は「製造から二年以上たっている缶詰を持って行って大統領に食べてもらいました。『こんなにフレッシュでおいしいとは』と驚いていました。これからは人材育成の支援が大切だと感じました」と話



那須塩原の製パン・秋元社長招待、災害救済の取り組み聞く

国内は通常の生活に戻っているが、トタン製の仮設住宅暮らしが続いている。「大変な生活だと思っけど常夏のおかげか、みんな明るかった」という。

昨年三月十三日未明、サイクロンがバヌアツ諸島を襲い、八十以上の島のうち二十二島が被害に遭い、人口約二十五万人の国民の七割近くに上る十六万六千人が家を失ったり、屋根を飛ばされたりした。道路や電線などのインフラも大きなダメージを受け、緊急支援が求められていた。JIFHは、食料支援としてパン・アキモトから提供されたパンの缶詰のほか、ろうそく、医薬品などを被災者に届けた。



バヌアツの仮設住宅の近くで遊ぶ子どもたち